プロジェクトマネジメントに関する研究（タイトル）

－サブタイトルがあればここに入れる－

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1142104　松本　併太

1. 研究背景

社会の情報化の急速な発展に伴い、“学び”にイノベーションが始まろうとしています。今までの、実物投影機やプロジェクターを利用した一斉学習での ICT の活用に加え、一人一人の能力や特性に応じた“個別学習”、そして、子どもたち同士が教え合い学び合う“協働学習”への ICT の活用が求められています。

総務省では ICT を利活用した協働教育の推進に関する調査研究ということで平成 22 年度よりタブレット端末を使って「フューチャースクール推進事業」を小学校、中学校、特別支援学校で展開しています。また、平成 23 年 4 月、文部科学省から出された『教育の情報化ビジョン』の中においても 21 世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を行うためには、子どもたちの学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進することが必要であると明記されており、その活用例としてタブレット端末を挙げています。大学においても新入生全員にタブレット端末を配るといった学科も出始めています。

近年、教育機関でも注目を浴びているのがタブレット型端末です。

タブレットの人気が高まっている．法人向け、すなわちビジネスでの利用だ。企業では元々パソコンを活用しているところが多い上、業種や職種によって用途がある程度、限定されており、必ずしも高性能なパソコンが求められているとは限らない。画面が大きく、コストも安く、持ち運べる上に通信機能まで備えたタブレットを導入したいという企業が増えているのだ。

米Apple社の『iPad』は発売後わずか1年で1500万台が売れ、タブレットはメインストリームな製品になった。しかし、タブレットはいったい何に役立つというのだろうか。それはパソコンを代替するものではないし、ノートパソコンや携帯電話のように必需品として携帯されるものでもない。1年前には、(ニッチ以外には)存在していなかった製品カテゴリーとしては、タブレットは驚くほど成功している。何も無いところからメインストリーム的な製品が突然出現したかのようだ。

消費者がiPadを使って行なっていることはネットサーフィン、電子メール、ゲームだ。さらに、ビデオを見る、電子書籍を読むなどにも利用されている。

**「平成26年度PM学科卒研中間審査用研究概要作成要領」**

・指定枚数：1枚／1テーマ

・用紙サイズ：A4

・余白：

上22mm

下22mm

左19mm

右19mm

・段組：タイトル，氏名の部分は1段，

本文は2段組み

・本文の文字数：22字

・本文の行数：50行（ページ設定で指定する値であり，タイトル等があるため実際には50行に満たない）

・日本語フォント：MS明朝

・英語フォント：Times New Roman

・フォントサイズ：

タイトル 　　　　14pt

サブタイトル 10.5pt

所属・氏名 　　　　10.5pt

本文 10.5pt

・句読点：カンマ「，」およびピリオド「．」を使用する

注）

１．原則として，このテンプレートを用いて作成する．

２．英文タイトルは記載しない．

３． 右段下の空行は2行以下にする．最低限，右段下から3行目まで本文を書く．

４．本文は，研究の背景，目的，研究方法，成果物のイメージ，進捗状況（これまでの成果），今後の計画などを簡潔に記述する．

５．その他，不明な点は，事前に指導教員へ確認すること

最低限ここまで（下から3行目）本文を書くこと